

JAFSA 研修プログラム(過去の実施例)

「国際教育交流初任者コース(受入れI)～入国・在留の基礎を中心にして～」研修報告

2007年6月28日～30日(於 関西外国語大学)

本研修は関西外国語大学において、私立大学から25名の参加者を集めて開催された。研修の和やかな雰囲気と参加者の能動的な学ぶ姿勢との相乗効果によって、研修は参加者全員に、担当する業務についての基礎的かつ重要な知識を効果的に学ぶことのできる場となった。

～講義風景～



～研修参加者～



講義Ⅰ 国際教育交流の理念と戦略

一橋大学の服部誠氏に国際教育交流の理念と戦略について、学問の理念および大学の起源までさかのぼって確認する内容の講義をいただいた。またその中で国際教育交流を世界規模の潮流から分析するマクロ的視点も示された。普段は自分の担当業務に追われ、なかなか考えが及ばないこれらの根本的・俯瞰的視点の大切さを改めて実感した。

ケーススタディ 国際交流の実践: 関西外国語大学の取り組み

関西外国語大学の鈴木剛氏と中くみ子氏より国内最大規模を誇る同大学の国際教育交流プログラムの実際と、協定校を多く持つことのメリットや多様な交流を下支えする様々な要素についてお話しいただいた。話の中で学生のニーズの変化についてのマーケティングリサーチやスタッフディベロップメントの更なる充実ということが今後の課題として挙げられ、プログラム運営を支える人的要素の重要性が明らかとなった。また「プログラムが魅力的であれば授業料が高くても留学生は集まる」というポリシーは、各大学における交流プログラムの開発にとって大きなチャレンジを与えるものと感じられた。

講義Ⅱ 受入の全体像

塩川雅美氏に留学生のリクルートから在学中・卒業後のケアにいたる受入業務の全体像について講義いただいた。塩川氏は受入業務を構成する個別の業務を的確に全体の中に位置づけされ、ご自身の経験も織り交ぜながらテンポよく話された。この講義によって、個別の受入業務を、有機的関連性を持つものとして捕らえなおし、一つの大きな流れとしてイメージしながら業務を進めることが大切であることを感じた。広報の仕方や宿舍の確保、リスクマネジメントの原則等について非常に具体的な提言もあり非常に有益であった。

講義Ⅲ 受入の実務 — 留学生の入国・在留について

滋賀大学の寅野滋氏に留学生の入国・在留管理に関して講義いただいた。渡日前の査証申請や渡日後の在留資格関係の諸手続きは様々な問題が発生しがちで、担当者にとっても頭を悩ませる業務上の問題となるが、寅野氏はこれらの問題に対する実務的なアプローチの仕方を、法的原則を土台にしながら紹介された。話は入管との交渉術や効果的な入管宛の経緯説明書の書き方にまで及び、明日からでも業務に活かしうる知識が豊富に含まれていた。

講義Ⅳ 国際教育交流の担い手とプロフェッショナリズム

学生中心の組織体制への移行と大学職員の専門職化がもたらすパラダイム転換が進む日本の大学における、職員のキャリア開発・プロフェッショナリズムについて講義があった。国際教育交流を担う職員には、その先進性と視野の広さからグローバル化が進展する現代にあって、大学を活性化する先導者の役割が期待されると話されたことが大変印象深かった。またキャリアデザインのための有益な情報も惜しみなく公開されており、講義全体が有益な知のツールのようなであった。

まとめ

今回の研修は業務に役立つ知識や情報の提供だけにとどまらず、国際教育交流業務に携わる者の志を高くさせ、励ますものであったと感じる。この研修で知り合った仲間との連帯を大事にしながら今後も切磋琢磨できることを願っている。今回の研修の運営に尽力くださった講師、スタッフの方々に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

報告者 大八木清一氏(専修大学)